

学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点

第2回シンポジウム 開催報告

東京大学情報基盤センター

東京大学情報基盤センターでは、1月12日（水）、13日（木）に「学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点 第2回シンポジウム」を、独立行政法人 理化学研究所 計算科学研究機構（神戸）で開催し、179名の参加者（大学103名、独法等研究機関33名、企業他43名）を迎えて盛会のうちに行われた。

「学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点」（以下、当拠点）とは、北海道大学、東北大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学にそれぞれ附置するスーパーコンピュータ（スパコン）を所有する8つの共同利用施設を構成拠点とし、本学東京大学情報基盤センターがその中核拠点を担う「ネットワーク型」共同利用・共同研究拠点である。各年度で共同研究の公募・採択が行われ、当拠点との共同研究を実施する。

今回のシンポジウムは、平成22年度公募型共同研究に採択された全37課題の中間報告を兼ねており、当拠点の課題審査委員による審査と併せて、各課題の発表後には委員に限らず一般の参加者も交えた活発な質疑や意見交換が行われた。

シンポジウムの開会では、石川裕総括拠点長（東京大学情報基盤センター）の挨拶に始まり、岩本健吾文部科学省研究振興局情報課長の来賓挨拶に次いで、平尾公彦理化学研究所計算科学研究機構長により「京コンピュータと計算科学研究機構」の表題にて基調講演が行われた。

また、初日の全セッション終了後には同機構研究員の案内により施設見学も行われた。

閉会では、中島浩課題審査委員長（京都大学学術情報メディアセンター長）からシンポジウム全体のサマリーを含めた挨拶があった。

当シンポジウムのプログラム、基調講演スライド、および、講演予稿（中間報告書）の正式版は次のURLから参照可能である。

当シンポジウムホームページ

<http://jhpcn-kyoten.itc.u-tokyo.ac.jp/sympo/>